

エビ漁場開発試験

川崎 一 男

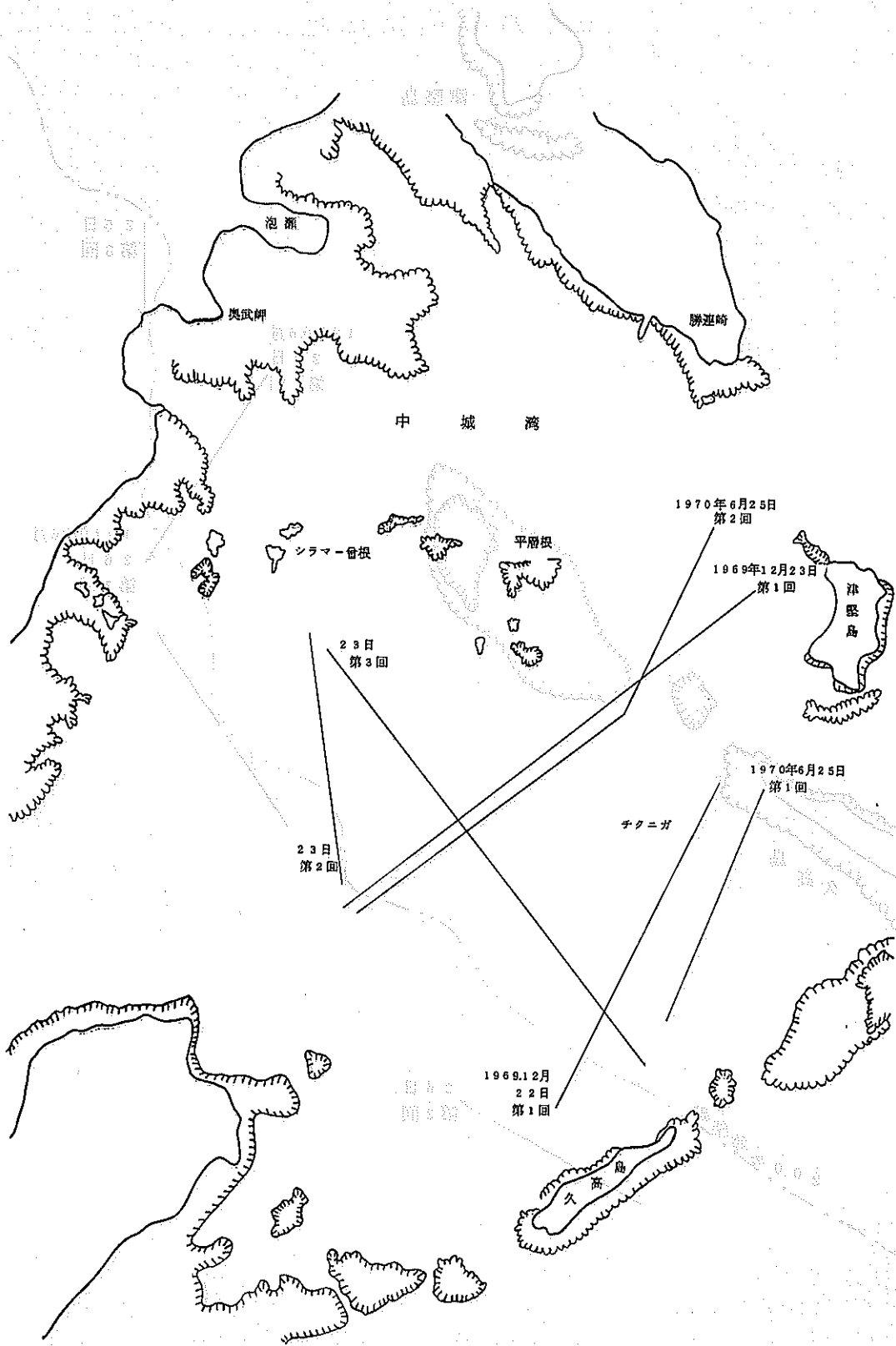
沖縄沿近海ではクルマエビ類を対象とした漁業はなく、未利用有用資源の生息も知られてはいるが、その漁場、資源の実態は明らかでなく、漁場開発もなされていないので、漁場、資源の実態を明らかにすると共に、漁業としての価値究明の必要から本調査を実施したのでその概要を報告する。

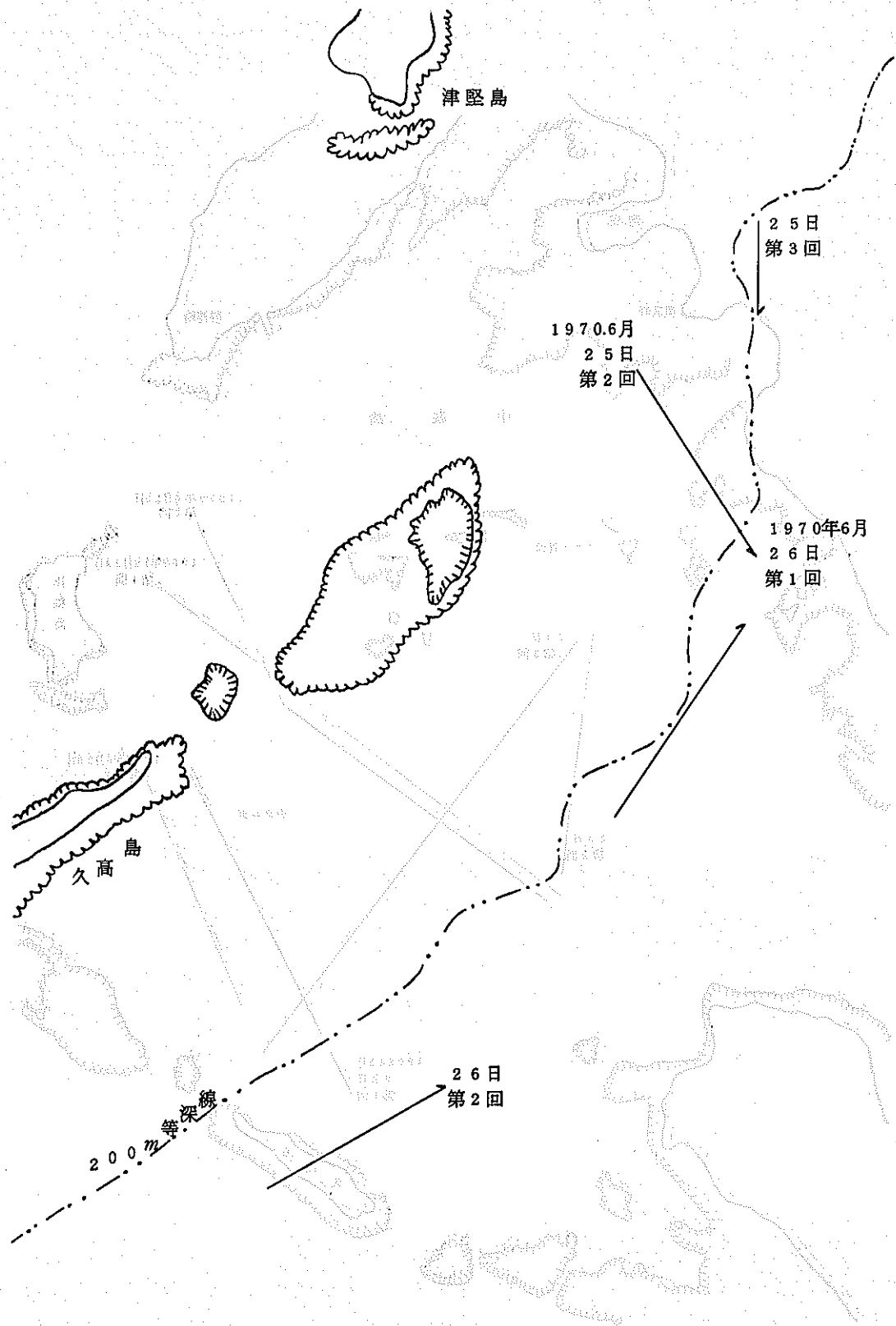
調査方法

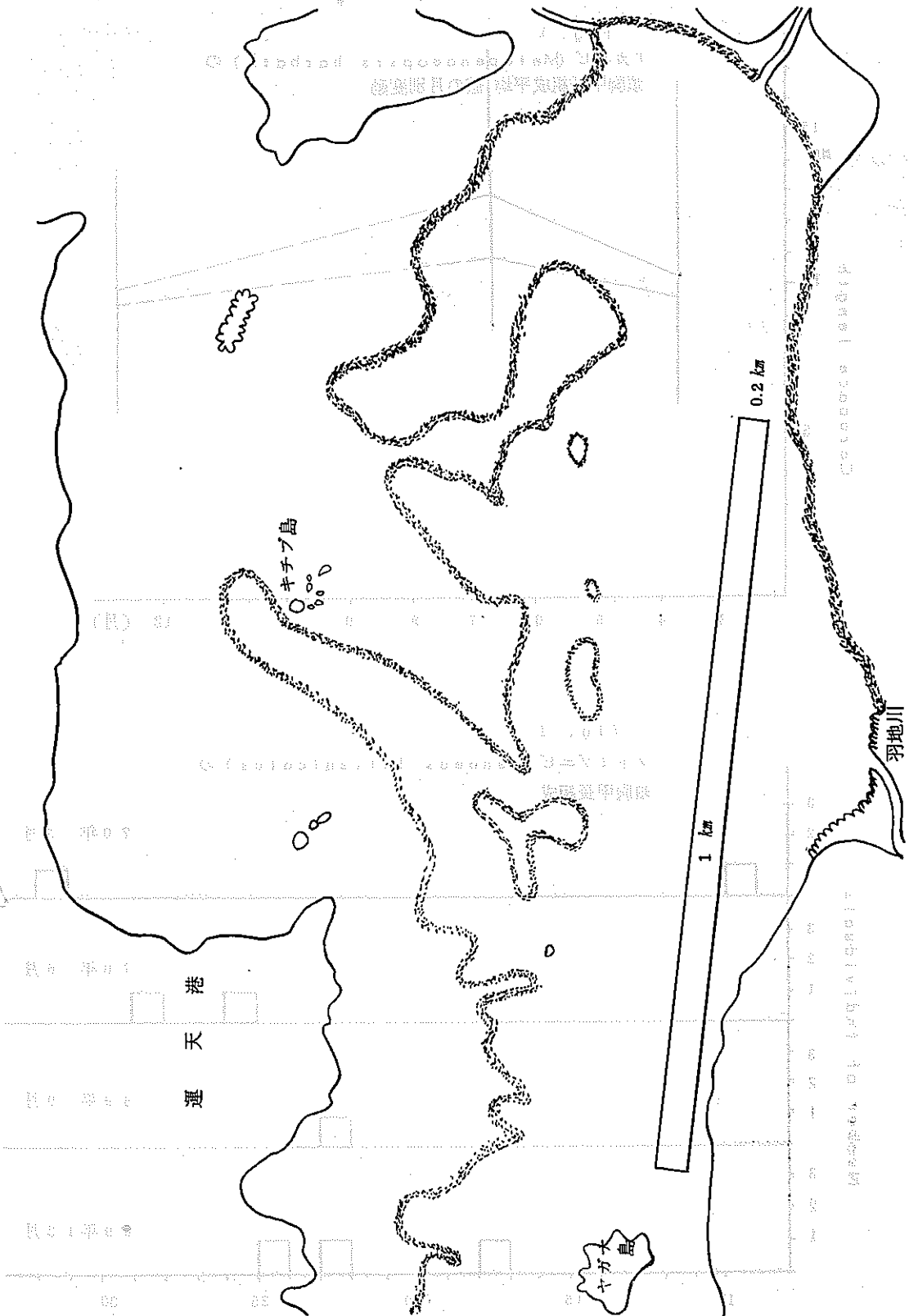
試験船、くろしお(21.44トン、100馬力)を使用し、漁具は一艘底曳網を使用し調査した。

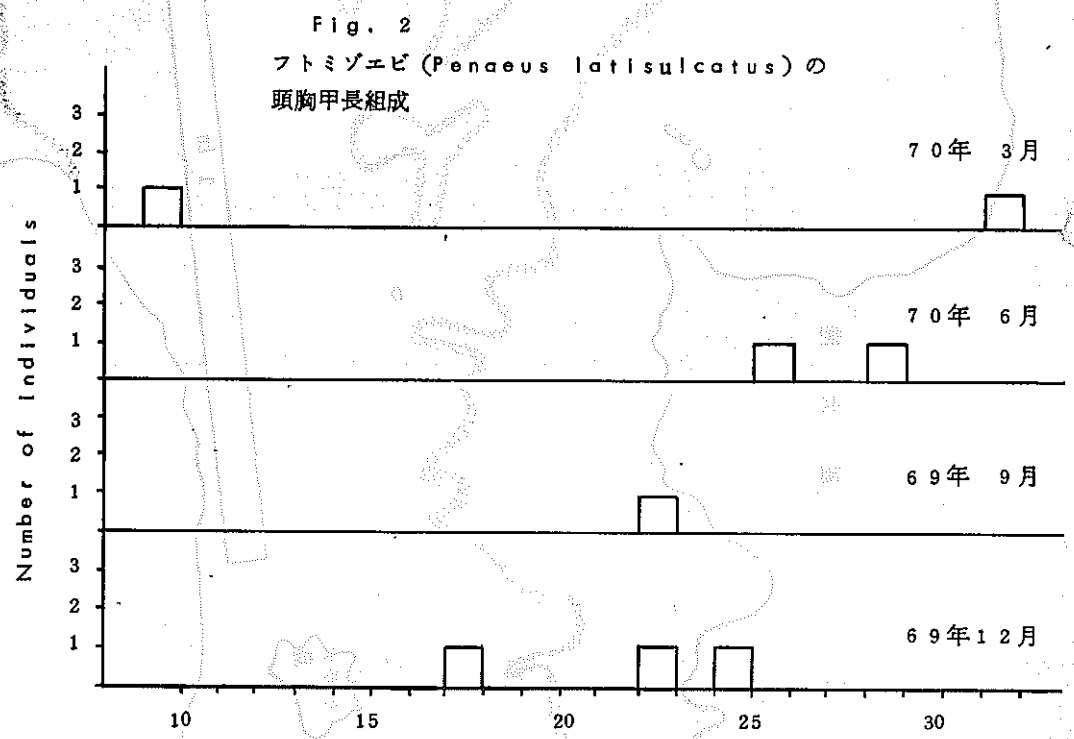
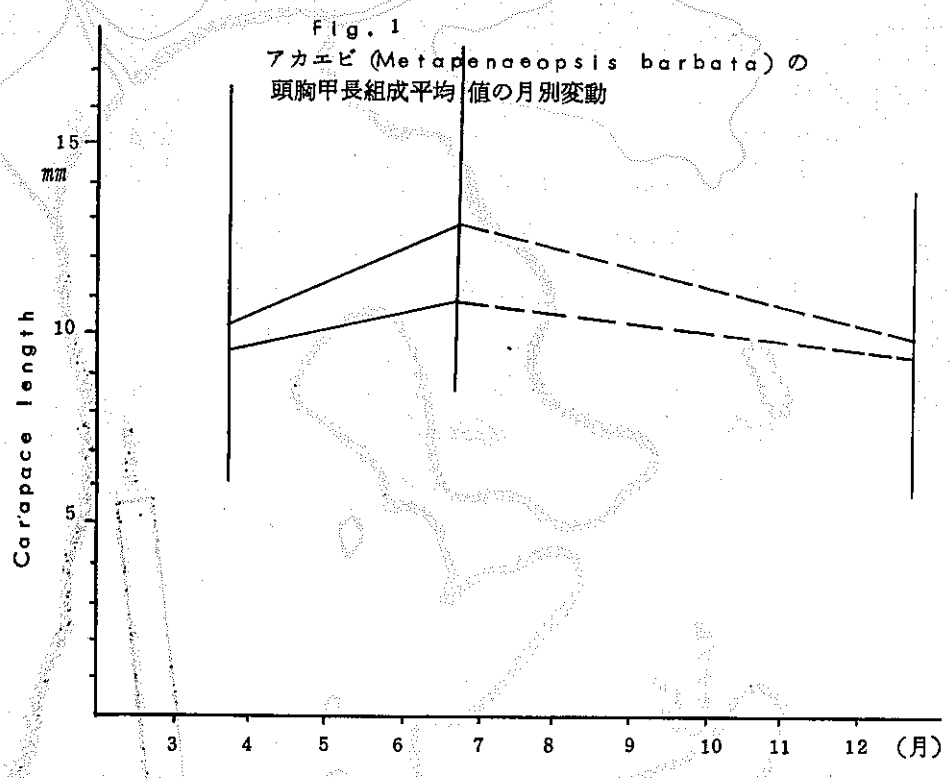
調査期間及び調査海域

航次	調査期間	調査海域	漁場水深
第1次	1969年 9月 8日~10日	運天港	8m~9m
		名護湾	50m~54m
第2次	1969年12月22日~24日	中城湾	28m~47m
第3次	1970年 3月26日~28日	中城湾	19m~40m
第4次	1970年 6月24日~27日	中城湾	26m~52m
		津堅、久高沖	140m~340m

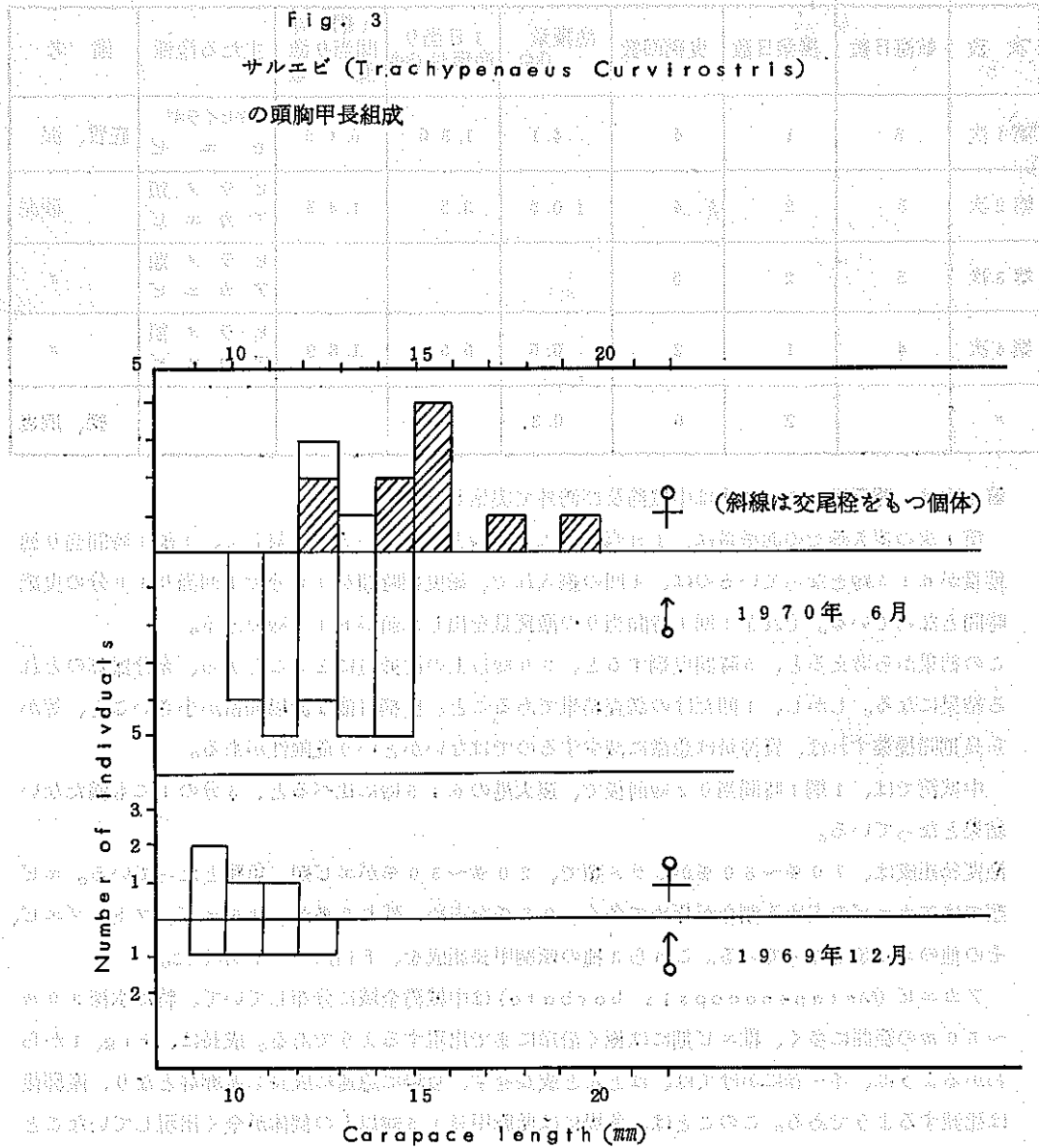








果 実 採 集 地



調査結果及び考察

操業結果表

次数	航海日数	操業日数	曳網回数	漁獲量 (kg)	1日当り漁獲量 (kg)	1網1時間当り漁獲量	主たる漁種	備考
第1次	3	1	4	4.1	1.36	6.15	オキヒイラギ モエビ	底質、泥
第2次	3	2	4	10.5	3.5	1.43	ヒラメ類 アカエビ	砂泥
第3次	3	2	5				ヒラメ類 アカエビ	〃
第4次	4	1	2	6.5	6.5	1.89	ヒラメ類 アカエビ	〃
〃		2	6	0.3				礫、珊瑚

第1次は、運天港、2～4次は中城湾及び湾外で実施した。

第1次の運天港での漁獲量は、1日当り、1.36kgとなっているのに対して、1網1時間当り漁獲量が6.15kgとなっているのは、4回の網入れで、総曳網時間が40分で1回当り10分の曳網時間となっている。それを1回1時間当りの漁獲量を出した値が6.15kgである。

この結果から考えると、5時間曳網すると、30kg以上の漁獲量になることから、充分採算のとれる結果になる。しかし、1回だけの調査結果であること、曳網可能な漁場面積が小さいこと、等から長期間操業すれば、資源量は急激に減少するのではないかという危険性がある。

中城湾では、1網1時間当り2kg前後で、運天港の6.15kgに比べると、3分の1にも満たない結果となっている。

漁獲物組成は、70%～80%がヒラメ類で、20%～30%がエビ類、魚類となっている。エビ類ではアカエビの占める割合が極めて多く、9.8%を占め、残り2%が、サルエビ、フトミゾエビ、その他のエビ類となっている。これら3種の頭胸甲長組成を、Fig. 1～3に示した。

アカエビ (*Metapenaeopsis barbata*) は中城湾全域に分布していて、特に水深30m～50mの範囲に多く、稚エビ期には極く沿岸にまで出現するようである。成長は、Fig. 1からわかるように、冬～春にかけては、ほとんど成長せず、夏場に急速に成長し産卵群となり、産卵後は死滅するようである。このことは、冬場には頭胸甲長15mm以上の個体が全く出現していないことから裏づけられる。

フトミゾエビ (*Penaeus latisulcatus*) は、潮間帯にまで出現するクルマエビ類の中で最も多い種で、釣りの餌として、かなり利用されている。

水産試験場八重山支場で、種苗生産に成功しており、養殖適種として、かなり重要視されている。中城湾では、一航海2～3個体しか漁獲されていないが、そのほとんどが、頭胸甲長20mm以上の大型個体である。1967年、同沿岸(水深10m以浅)での調査結果で、相当量生息していることがわかっており、20m以深へ移動する個体は、極く僅かであろう。

サルエビ (*Trachypenaeus Curvirostris*) は、漁獲される量は、かなり少なく、全体の2%以下である。生息範囲はアカエビと同様であるが、水深10m以浅への移動はみられないようである。頭胸甲長組成をFig-3に示した。サルエビもアカエビ同様、冬場には頭胸甲長15mm以上の個体はみられない。6月の雌の12個体中、10個体は交尾栓を持っており、産卵は、夏～秋にあるものと推察される。

要 約

1) 底曳網によるエビ資源調査を行なった。

2) 1網1時間当り漁獲量は、運天港で6.15kg、中城湾で2kgという結果になった。

3) エビ類は、運天港ではモエビが最も多く、中城湾ではアカエビの占める割合がかなり高く、98%を占める。

4) 漁場、資源量からみて漁業としての価値はかなり低い。

5) 今後は主に200m以深の漁場調査を実施したい。